



## 重度障がい児支援 花色

vol.40

2023.12.11

# NEWS LETTER

旭川市



## 指定福祉避難所の協定を結びました



2018年9月6日 北海道で最大震度7の地震がおこり、日本で初めての大規模停電【ブラックアウト】がおこりました。覚えていますか？

日本は平和な国で、ブラックアウトがおこっても「すぐに復旧するだろう。」と誰もが思っていた感じがありました。しかし、全域の復旧には時間を要しました。

信号が止まっている中、ドキドキしながら、おにぎりや味噌汁を持って子ども達のお家に向かったことを思い出します。「無事ですか？困っていませんか？」と、声をかけると。「うちは大丈夫です。」や、「もう少し頑張ります！」というお声の中。「痰の吸引器の充電がありません！」「酸素がたりないかも。」という声もあがり、すぐに充電器等をもって走りました。復旧は着々と進みましたが、地区によっては酸素濃縮装置が止ったまま静かに復旧を待っていたご家族や、車の中で夜をすごしたご家族もいらっしゃいました。「花色に来ませんか？」と声をかけると、「もう少し頑張ります。」と、明るく笑いながらも「迷惑をかけられないよ。」という思いを感じました。

後日、混乱が落ち着いてから「停電時」を振り返り、緊急時の医療機器の充電先を探しました。「携帯電話の充電」には協力的な会社様はありましたが、小さな医療機器のバッテリーを見せても、良いご返事はもらえませんでした。

その後、保護者様にブラックアウト時の状態についてアンケートをとると、「もしまた停電になっても、一般避難所に避難はできない。」という声が多数あがりました。「医療機器の振動音や、エラー音で迷惑になるのではないか。」「車いすの子を受け入れてもらえるのだろうか。」「発作の時に大きな声をあげてしまうので嫌がれそう。」「と悩み、避難をあきらめる声がありました。そこで、避難所で過ごす練習として、「宿泊型避難訓練」を実施して欲しい。」と、様々な機関をお願いしてきましたが、必要性はご理解いただけても実際に行う所までは話しが進みませんでした。

改めて～重症児や医ケア児も安心して避難ができる仕組みが必要～と考え、模索し

①気負いしないで避難できること。②花色は一般住宅なので避難者のキャパを越えないこと。③花色の職員も家族がいるので職員が大きな負担にならないこと。を考慮し、利用対象者を特定する「指定福祉避難所」という方向性を見つけ、旭川市防災課の担当者様と議論を重ね、今津市長のご協力をいただき、令和5年12月5日に旭川市と「指定福祉避難所」の協定を結ぶことができました。この「指定福祉避難所」は「花色ご利用児様とそのご家族様を対象者」とします。なので利用児様に直接避難を促すこともでき、避難すべき先が日常から明らかになることで、安心して生活を送ることができます。必要な医療等の物品は、日常の支援の中で揃っています。そして災害時、花色に避難者がいる事を旭川市が把握しているので、孤立することなく過ごせます。

一般的に、＜福祉事業所＞（デイ等）をご利用の方は、「何かしら配慮を必要とする方」が多いので、馴染みのない一般避難所の集団の中で過ごすのは、大きな負荷をかけることもあるでしょう。なので、「いつも利用している事業所」に避難するということができるのは、精神的な安定にもつながるのではないかと考えました。今後も、多くの＜福祉事業所＞が、「福祉避難所」になっていくことを願います。そして、この先「もしも災害がおこった時」に、花色の子ども達も避難することをあきらめず、花色へ。

「福祉避難所」として利用し、頼って欲しいと願います。

ブラックアウトがおこってから、5年の年月がかかってしまいましたが、私達ができる事を今回、ひとつ形にできました。

そしてこの度、今津市長が福祉避難所の協定を前に花色に来て下さいました。お家で暮らす重症心身障がい児や医療的ケア児が旭川市内にもたくさんおり、この子ども達に何が必要なのかを真摯に耳を傾けて下さいました。子ども達の未来はきっと明るくなるはずで。

北海道のこの地に生まれ、ここで育って良かったと、きっと思える町になっていくと思います。

旭川市長 今津 寛介 様  
旭川市防災課 の皆様 心より感謝申し上げます。



齊藤由紀



# 重度障がい児支援 花色

# NEWS LETTER



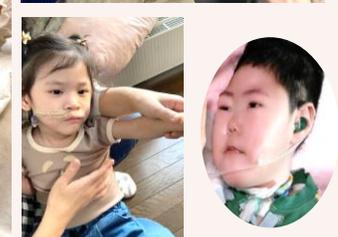
vol.40  
2023.12.11



あれ〜  
今津市長だあ



み〜んな、  
小さいお友達の  
お世話したくなる



い〜い湯だな

